

議 事 録

1. 開会

2. あいさつ

3. 委員紹介

4. 座長指名

5. 議事

(1) 説明事項

①本宮市の人口動態について 資料1

質疑なし

《事務局》

- ・補足として、最新版令和5年5月1日現在の総人口が29,926人となっており、今年の3月1日時点で初めて3万人を下回った。

(2) 協議事項

①地方創生関連交付金事業について 資料2

(委員)

- ・まゆみちゃんプロジェクトについて、すごく面白い取り組みで、全国的にもあまりないケースだと思う。1つ、私が喜多方市にいた時の事例を紹介させていただく。喜多方市には農業科という授業が小学校にあり、喜多方市の1つの高校が作ったメニューを小学校の給食で提供するというを行っている。まゆみさんたちで作ったメニューを給食で提供するのも面白いのではないかと思う。
- ・全国から見た本宮のイメージと、本宮から見た本宮のイメージを合わせ、給食でアピールしていくと、地域住民のほか、メディアの方も面白いと思い、取り上げることで、認知度拡大に繋がるのではないかと思う。

(委員)

- ・本宮シティプロモーション推進事業について、色々な所に行って本宮市の魅力を発信して、入ってくる方を増やそうという取り組みだと思うが、実際、県内外から本宮市に住民票を移して住んでくれた方へ、その後のフォローは何か施策としてはやっているのか。

《事務局》

- ・福島県の方では「tenten」という、福島に移住してきた女性をフォローアップする団体があるが、市単独でフォローというのはまだできていない。今後、移住者へのフォローという視野も入れることができればと思う。

(委員)

- ・本宮市の若い方の中に、そのような取り組みをやってみたいと思っている方がいるかもしれない

い。市役所で後押しがあればやってみようと思う方もいるのではないか。全部の政策を市役所中心に担うより、市民の力を借りて押し進めて行くほうが、上手く、長続きすると思う。

《事務局》

- ・シティプロモーションとして、様々な移住相談会に行っており、昨年は東京の移住相談会が3回あった。相談件数は27件あったが、その中からの令和4年度本宮市への移住者は1世帯3名となっている。その他の県外からの転入者については、移住かどうかがわからないが、この数年で何件かの移住者はいる。その方々にも協力していただき本市のPRを進めることができればと思う。

(委員)

- ・本市の観光資源ということで、最近高木地区に民間のスケートボードのパークやショップができています。オリンピックの効果もあり子供たちの人気競技であり、競技人口も年々増加している。ここでは小学生の大会なども開くことができ、東北でも数少ないパークのようである。その大会などに本宮市でもバックアップがあれば、相当イメージアップになり、子供たちの健全な育成にも繋がるのではないかと思います。

(委員)

- ・本宮高校との連携について、昨年、産業祭で農業団が作ったサツマイモを使った焼き芋とじゃがバターを作っていた。今後も農業団の各ラインから学校へ赴いて、今後の計画と生徒さんから意見を聞きながら、1年間どのような6次か目指していくか、進めて行く予定である。
- ・若手農家として、地域の農業のことを知りたいということもあるので、農業団を使っていたきたい。いろんな経験をしてもらえれば農業の魅力も伝わると思いますし、今後の本宮の目玉になる商品開発の力にもなっていただきたいと思っている。

(委員)

- ・外国人住民生活サポート事業の方で、2005年から本宮日本語教室というボランティア団体に入って活動している。長い間活動してきて話を聞いたり、県外での研修や先行事例から気づいたこと紹介させていただきたい。サポート事業というと、私たちが来てくれた方に和やかにここで暮らしてほしいということで、フォローしてあげたいという気持ちが強いと思うが、当事者の方からは、自分たちも助けてもらっているという話があった。高齢者しかいない古い団地に外国人の家族が入って、文化の違いを乗り越えて、一緒にやることによって上手くいったという事例を何件か聞いた。私たちがサポートする形だけでなく、災害の時などに、高齢者と一緒に逃げるといったことが可能性としてはできる。そのような、外国人と一緒に暮らす本宮というイメージを作っていたらと思う。

(委員)

- ・数年前に相模女子大生が自分たちでレシピと本宮の農産品を使ったカフェを開催した。本宮高校生もそのようなカフェを開くことで、高校生が開発した商品のお披露目の機会になるのではないかと思います。

②もとみや結婚サポート事業について 資料3～6

(委員)

- ・結婚新生活支援補助金について、国の予算ということだったが、国の条件に合わない部分は市独自で持ち出すということか。

《事務局》

- ・国の要件が39歳以下となっており、それを満たさないものに関しては財源を市の単費で実施することになる。

(委員)

- ・収入の要件は国の要件と同じと理解してよいか

《事務局》

- ・所得要件は国で示された要件と同じである。

(委員)

- ・出会いサポート事業の大きな核は、外から来る人を求め結婚してもらうものなのか、本宮にいる方々に結婚してもらい広げていくもの、どちらが核になっているのか。

《事務局》

- ・市内市外どちらも対象である。

(委員)

- ・若者の移住で首都圏から地方へすごい目が向けられている。そこで、しっかりとした仕事先があるのかどうか。また、コロナ禍になって、人の喧騒がないところが良いということが多いと思う。本宮市は住む場所、子育て環境は整っていると思うが、働き手への支援は今どういったものがあるのか。

《事務局》

- ・昨年に定住促進会議を開催した経過があるが、やはり移住してくる方の働き口がないと生活できないということで、大変重要な部分であると認識している。しかし、就業マッチングについては、特効薬がないという現状である。
- ・工業団地の多様な企業とどのようにマッチングしていくか、また今注目されている農業への就農についてもどのようにマッチングするか、農地の管理、指導者等確立されていないのが現在の状況である。商工観光課や農政課等とも連携していくべき事案であるため、今後も意見をいただきながら、進めていきたい。

(委員)

- ・もう一点として、仲間づくりが重要かと思う。若い人が本宮に来て仲間を作ることで、寂しくなくなる。地域おこし協力隊も任期終了後その地域に留まるのは、その地域の仲間がいないと厳しいということも全国的にニュースとなっている。そういった仲間づくりとして、青年会議所等の様々な団体とコラボして、まちおこしに参加していただくことや、待ちコンのようなものを各団体と連携するのも1つ面白いのではないかと思う。

(委員)

- ・結婚新生活支援補助金についてよく聞くのが、制度について調べてみると自分たちの収入が要件オーバーで無理だったということ。常勤や共働きが多いので超えてしまう。予算の問題もあると思うが、所得制限の撤廃するのはどうか。困っている方の結婚への後押しが目的な

のか、人口増が目的なのか。所得制限があり、他市と同じなら他市にしようという方もいると思う。

(委員)

- ・今のお話しごもっともだと思う。人口増といっても、自然増を目指すのは難しく、今の時代人口は取り合いなのだと思う。それを考えた時に、収入制限 500 万未満というのは目を引かない。本宮にいる人は要件合えば使うというだけで、他から引っ張るという点では見劣りする。予算の話しがあったが、これを撤廃することでどのくらい増になるかというのは、話しが広まってからであり、制限撤廃する価値は十分あるのではないかと感じた。

(委員)

- ・福島雇用促進協議会では、現在も避難者が遠方各地に散らばっており、Uターンさせたくてもその避難先に生活基盤があるため、戻ることができない。だが、戻ってみたいという方もたくさんいるため、年に 1 回程度首都圏で面接会や企業説明会を行っている。福島に興味がある方は誰かといったときに、避難者も含めて考えていただければと思う。
- ・本宮高校の就活支援で求職動向調査を取ったところによると、本宮で働きたいという方がほぼ全員だったと先生から聞いている。市外から来る人も本宮で働きたいと、学校全体で本宮で働きたいという意識は強いと聞いている。そこで、大学等進学した方がどうやって戻ってくるのかというときに、地元のイベント等で郷土愛を醸成することが突破口になると思っている。

(委員)

- ・出会サポート事業について、どのくらい結婚したい人がいるのか等ニーズの調査する方法やデータはないのか。そういうものがあればもっとマッチすることが出てくるのでは。

《事務局》

- ・プライベートな要素が高いため、募集をかけて実際に登録した方の 10 人が限界であった。アンケート調査を取った経緯はなく、ニーズの数字は持っていない。登録者 1 人 1 人に担当のサポーターが付くが、登録者に女性がないこともあり、相手を探すことに苦労されていた。相手がないことから、なかなか成果が上がらないため、令和 5 年度より福島県へ移行、登録サイトの方へ促し、サポーターは福島県の世話焼き人制度というものの案内をしていきたいと思っている。市として限界を感じる部分があり、このような形となった。

6. その他
なし。

7. 閉会

以 上